

当別文芸の会だよりNO,46

H26・1/28 発行 (連絡先・河地良一 Tel23-2103)

1月の読書会は吉村昭の「鳥の浜」でした

明けましておめでとうございます。3年続きの大雪になりそうですが、ここ1週間は雪も小康状態ですね。それでも今冬も半分が過ぎ、もう少しで節分、お雛さまの季節を迎えます。今年もみなさんのご健勝を願っております。

さて、1月の例会は25日(土)に開催され、14名のメンバーのみなさんが参加されました。昨年8月末に中国の内モンゴル自治区に、肉牛生産の技術指導で行かれた新名正勝さんが12月末に一時帰国され、久しぶりで顔を見せてくださいました。早速、滞在中の近況をみなさんにお話いただきました。牛舎の規模の大きさ、流通や生活のようすなど、海外生活の興味ある内容のお話でした。いずれ機会を見ての報告を楽しみにしております。

続いて読書会は、メンバーの佐藤孝さんの司会進行で、吉村昭の「鳥の浜」についての読後感想交流を行いました。吉村昭は昭和2年(1927年)生まれで、時代考証に基づくたくさんの歴史小説を書いています。この「鳥の浜」は昭和20年8月の終戦時の樺太引揚船の「三船遭難」の詳細を克明に調査し、作品にしたものです。その一つである「小笠原丸」(1,397総トン)は当時の逓信省所属の海底線布設船でしたが、急きょ樺太からの引揚船に転用され、留萌沖の増毛町大別刈付近で潜水艦の魚雷攻撃で沈没し、たくさんの犠牲者を出しています。潜水艦は国籍不明のまま、多くの傷跡を残して、歴史の彼方に忘れ去られようとしています。

みなさんの感想は、こうした事実を知っておくことの大事さが分かった。だが、作者が作品にした意図は何だったのかなど尽きない話題が出されました。吉村昭の他の作品をもっと読んでみたいという感想が余韻として残りました。

2月例会のご案内

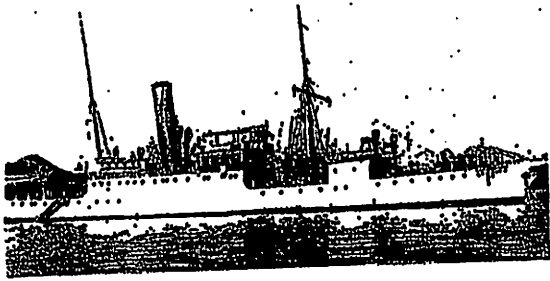
2月の読書会・文芸交流会は2月22日(土)13:30より白樺コミセンです。その時の資料として、ロシアの作家・チェーホフの短編集から「ワーニカ」(7ページ)をお届けします。また、2月は文芸交流として、メンバーの村木一枝さんに「私のロシア体験」のテーマでお話をさせていただく予定であります。

「当別文芸」(第4号)の原稿募集中

1月末が締め切りですが、2月末でも結構です。たくさんのメンバーのみなさんからの原稿をお待ちしております。また、原稿募集のPRもよろしく。

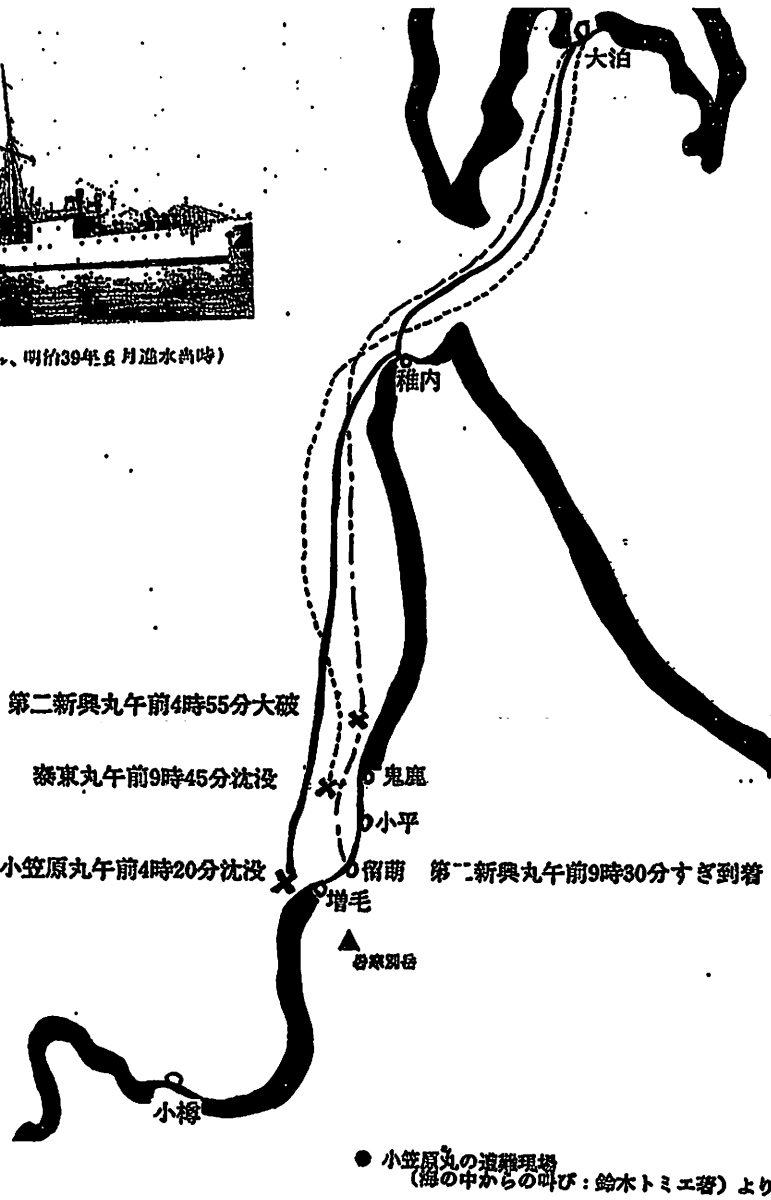
創刊号(800円)、第2号・第3号(各900円)の残部あります。TELを。

*次年度の日程案は、3月例会時にお知らせ出来るよう計画中です。



敬啟船 小笠原丸 (総噸數 1,397 噸、明治39年6月進水當時)

佐藤孝弘資料提供



『石狩川』を読む会 臨時新春号

新年 あけまして おめでとうございます。
昨年はみなさまと一緒に有意義な読書会をもてましたこと大変感謝申し上げます。
本年もよろしくお願いたします。

毎日の除雪、排雪のお仕事で体調を崩していませんか。
お大切にお過ごしください。

さて、お詫びと訂正をいたします。
12月の「活動短信 NO8」において、2月17日(月)の例会を 2月10日(月)と間違っ
てお伝えしてしまいました。申し訳ありません。

- (正) 2月17日(月) 13時30分～
- (誤) 2月10日(月)

訂正とお詫びを申し上げます。
17日はお天気が良くなるといいですね。お待ち申し上げます。

(文責：堀江)